

# 共に見つける“できる”の拡大

Finding out to increase “*dekiru*” of a person with disabilities corporation with them and their supporters

○穴穂 優季 中鹿 直樹 高山 仁志

Yuuki, ANAHO Naoki, NAKASHIKA Hitoshi, TAKAYAMA

(立命館大学人間科学研究科)

Ritsumeikan University Graduate School of Human Science

Key words: 模擬喫茶店舗, 課題分析, “できる”

## 目的

本研究では、対象者が大学内に設置した模擬喫茶店舗でのカフェ業務を通して、自身の「できる」を発見・拡大することを目的とした。さらに、カフェ業務に基づいた「できる」を発見・拡大することにより、社会生活場面や日常生活場面での「できる」も拡大していくことを目的とする。カフェ業務に取り組むことで、より充実した就労支援の一步となりたい。

また、ここでの「できる」とは、指示されたことをその通りに遂行できることではなく、手立てなど何らかの援助付きであっても行動して、正の強化を受けて維持されている様子を指す(中鹿・尾西・小島・土田・望月, 2019)。

## 方法

**研究参加者** 発達障害の診断があり、就労移行支援を利用中のAさんを研究参加者とした。カフェ業務においては、ホール兼キッチン店員の役割を担当した。

**手続き** B大学に設置されている模擬喫茶店舗において行った。研究期間は、X年Y月Z日からX年Y月Z+9までの5日間であった。研究時間は2時間とし、土曜日・日曜日には行われなかった。用意した課題分析表に書かれた接客やメニューの提供などの作業をAさんが行い、Aさんのサポートをする学生1は店長役として、Aさんが危険な場合やコロナウイルス感染症対策に関することには必ず声をかけ、それ以外に忘れていたことなどがあれば、Aさんの自発的に取り組む様子があるか見た上で声をかけた。課題分析表は、I(客の入店、注文)、II(飲み物の作成、提供)、III(会計)の3種類を用意した。学生2は、店員兼記録係として、課題分析表に沿ってプロンプトあり、プロンプトなしの項目におけるAさんができたことを記録した。3種類の課題分析表に基づき、項目×客の人数を満点として、プロンプトなしとプロンプトありの達成率を算出した。また、カフェ業務終了ごとに店員役の学生やこちらが予め用意した客とAの“できる”や業務について話し合う会議時間を設けた。

## 結果・考察

課題分析表Iに基づいた結果として、プロンプトなしにおける2日目の達成率は50%であったが、2日目以外の4日間においては70%以上の達成率であり、80%を

超える日もあった。プロンプトありの達成率は4%未満であった。課題分析表IIに基づいた結果として、プロンプトなしではどの日にちにおいても90%前後の達成率であった。プロンプトありの達成率は、5日間すべてにおいて10%以下であり、プロンプトなしとプロンプトありの合計において、3種類の課題分析表のうち、最も高い結果であった。課題分析表IIIに基づいた結果として、プロンプトなしでは5日間すべてにおいて55%以下の達成率となった。プロンプトありでは、2日目が20%と高く、2日目以外においては、10%以下であり、合計した達成率にばらつきがみられた。

達成率の結果から、5日間の研究期間において大きな変化は少なく、課題分析表に書かれたこと以外の自発的な言動が目立った。会議において、1日目から課題分析表には詳しく書かれていなかった飲み物のホットかアイスかについて、自発的に確認した様子があったこと、3日目には、2日目でコーヒーマーカーに水を入れる際にあふれたことをリカバリーする旨の発言があったことが振り返られた。お菓子の提供に時間がかかった場合においても客を気遣う発言があった。さらに、新たなメニューを考案し、最終日には皿洗いをまとめて行う作業の効率化がみられた。これらの点から、課題分析表に関すること以外にもAさんができることが周囲の支援とともに、カフェ業務という形態の中で、様々に表出されていたように考えられる。

一方で、Aさんのできることがさらに表れ、拡大できるよう、カフェ運営をどのように取り組めばより良くなるのか、共に考えることが期待される。さらにメニューを考案し増やすことや店内の装飾・片付けを増やすことなどが例として考えられる。自身の工夫を積極的に認めてもらえる環境で過ごせる時間を持つことが必要不可欠である。

## 参考文献

中鹿 直樹・尾西 洋平・小島 遼・土田 菜穂・望月 昭 (2019). 障害のある生徒を対象とした大学内模擬喫茶店舗における職場実習 対人援助学研究, 8, 14-23.